令和6年度

事業報告書

社会福祉法人 上士幌町社会福祉協議会

事業項目(決算額)		
事業名	事業実施状況	評価・課題等
1. 法人運営等事業 (3,951,230円)		
① 社協運営の基盤づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○一般会員 1,522戸 472,100円 ○特別会員 220件 501,000円 ○WEB振込、メールやLINE等の活用により、事務の効率化を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●一般会員、特別会員とも前年度は増加したが減少傾向にはあり、会員増加に向けて一層の努力が必要である。 ●WEB振込を利用し、大幅な手数料軽減となった。
② 関係機関・団体との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ○民生委員児童委員協議会総会への出席 ・社協事業説明と協力要請 ○11月29日 町理事者・社協三役懇談実施 ○町保健福祉課との連携 ・日常的な課題について随時協議 ○地域福祉連携会議幹事会への出席 ・5月15日、11月21日 事務局長出席 	<ul style="list-style-type: none"> ●福祉関係機関・団体等との連携強化に努めた。 ●社協事業の推進にあたり、福祉関係機関や各種団体等との共通理解を深め、連携を図ることは重要であるため、引き続き連携強化に努める。
③ 会務の運営	<ul style="list-style-type: none"> ○理事会の開催 4回開催 ・5月29日、9月18日、12月12日、3月11日 ○評議員会の開催 2回開催 ・6月21日、3月19日 ○部会及び委員会の開催 ・随時開催 ○監査の実施 ・監事による内部監査 7回実施 ・会計事務所による指導、外部監査 12回実施 ・12月10日 社会福祉法人運営指導監査 十勝総合振興局による運営指導監査 ○正副会長会議の定例化 13回開催 ○職員会議の定例化 11回開催 	<ul style="list-style-type: none"> ●理事会は4回開催し、的確に職務を執行した。 ●関係機関・団体等からの理事選出により、社協運営に対して多くの意見反映がされている。 ●評議員会は2回開催し、必要事項を決議した。 ●2部会(地域部会、福祉部会)、3委員会(総務委員会、評価委員会、特別委員会)、それぞれの役割分担を明確化し、社協運営に反映した。 ●監事・会計事務所の監査を定期的に受け、適切な法人運営、会計処理を行っている。 ●監査での指摘事項等については、改善に努めている。 ●正副会長会議の定例開催の他、職員採用や課題・法人運営・事業実施のため随時開催し対応がスムーズにできた。今後も、定例、必要時開催に努める。
④ 役職員の研修参加	<ul style="list-style-type: none"> ○道社協十勝地区事務所主催研修への参加 ・11月6日 地域の支え合い活動推進セミナー参加 参加者6名 ・2月13日 地域に理解され支持される社協づくり研修会参加 参加者6名 	<ul style="list-style-type: none"> ●研修へ参加することにより、役職員の研鑽及び意思疎通が図られた。 ●今後も計画的な研修を実施するとともに、各種研修会等に参加する。
⑤ 共同募金運動への協力の協力	<ul style="list-style-type: none"> ○共同募金(10月) ・募金額 1,942,432円 ※期限外 11,700円(次年度実績として取り扱い) ○歳末たすけあい募金(12月) ・募金額 12,000円 	<ul style="list-style-type: none"> ●カプセルトイ設置によるピンバッジ募金を3施設に設置したが、カプセルトイによる募金は実績減となった。増加に向け設置場所の周知やピンバッジのデザイン等を検討する。 ●共同募金は目標額を上回った(達成率104.49%)。様々な福祉活動を実施する団体等の活動ニーズにこれまで以上に応えられるよう、募金の周知と理解を得る取り組みを行う。

2. 共同基金配分金事業 (12,711 円)		
① 歳末たすけあい基金配分「生活困窮者支援事業」	○生活困窮者支援事業の実施 ・食料品等の現物給付 1 件 1 名に対し 7 日間分の食料提供した。	●歳末たすけあい基金を財源に実施した。 ●失業や物価高騰などの社会情勢もあり、セーフティーネットとしての必要性は高く、生活相談等があった際に、町・民生委員児童委員協議会・とかち生活あんしんセンターとの連携強化を図った。

3. 地域福祉活動推進事業 (102,443 円)		
① 福祉関係者懇談会	○上士幌福寿協会役員・社協役員懇談会の開催 ・7 月 25 日、1 回開催	●上士幌福寿協会と社協双方の事業理解及び連携のため実施した。 ●今後も継続して実施する。
② 地域情報・ボランティア・災害時情報発信連絡調整事業 (旧地域見守り安心メール配信事業)	○メール配信機能も備える、kintone plus とメール共有ツールのメールワイズを活用し情報発信した。 ○社協ホームページにて、メール配信事業の試験的なメール配信を実施する旨を情報発信した。旧メール配信登録者にふれあい広場事業の案内を送信した。	●地域情報・ボランティア・災害時情報の連絡調整を視野にメール管理・配信システムのメールワイズを導入した。 ●@InfoCanal により町の情報を得る方が増えている。また、提供する情報内容も防災情報、高齢者福祉、子育てと重複しており、社協が情報発信の主体となるのは難しいが社協としての情報発信は続けていく。 ●メール配信だけではなく、SNS を含めた活用を検討する。
③ 地域福祉実践計画の推進	○第 6 期地域福祉実践計画に基づき、事業実施 ・評価委員会の開催 4 月 25 日、2 月 25 日	●評価委員会で進捗状況評価を実施した。 ●役職員の共通認識のもと、達成状況を検証して事業の修正及び見直しを行い、次年度事業に反映する。

4. 広報活動事業 (905,630 円)		
① 社協だよりの発行	○毎月 25 日発行 ・町広報に折り込み配布	●毎月発行し、町民に読まれやすい紙面づくりに努めた。
② ホームページの活用	○毎月、広報発行時に定期更新し、その他、随時更新を行い情報発信した。 ○収支予算書・事業計画及び事業報告の掲載	●全国社協の HP 作成支援ツールは令和 6 年度末で終了した。独自ホームページ開設を行い、SNS と連動した情報発信を行い社協活動の周知及び理解・協力を得る。
③ SNS の活用	○社協活動 PR のため SNS の活用 ・令和 6 年 9 月から Facebook ページを開設した。社協事業の告知、報告などを写真付きで投稿している。	●ホームページと連動し SNS での情報発信を行った。

5. 厚生援護活動推進事業 (152,393 円)		
① 被災者見舞金の配分	○実績なし。	●対象者が発生時に随時対応している。
② 無縁仏供養祭	○7 月 3 日 ・静民の碑・勢多地区共同墓地にて実施した。参加者 23 名	●町理事者、民生委員児童委員、社協役員が出席して実施した。 ●無縁仏の供養として、今後も継続して実施する。
③ 会葬見舞セットの進呈	○進呈実績 53 件	●町町民課窓口にて届出時に進呈した。 ●今後も継続して実施する。

④北海道フードバンク窓口連携事業との連携	○歳末たすけあい募金配分「生活困窮者支援事業」による食料品の現物給付での対応のため実績なし。	●北海道フードバンク窓口連携事業と連携し、支援の充実、対応の強化を行った。
----------------------	--	---------------------------------------

6. 児童・母子福祉事業 (0 円)

①福祉教育の推進	<p>○小中高校生(狭義的福祉教育関連事業)対象事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上士幌小学校 (防災、福祉授業実施) ・上士幌中学校 (暑中見舞い・寒中見舞いの作成、認知症サポーター養成研修実施、防災・福祉授業実施、おひとりさま交流会協力) ・上士幌高校 (クリーン作戦、クリスマスコンサート、ほがらかサロン協力) <p>○地域住民(広義的福祉教育関連事業)対象事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1月21日、3月11日に「生活支援体制整備事業研修会」を実施した。意識づけや活動推進を行った。 ・住民主体活動の側面的支援 (地域食堂うれしか、ボランティア・サロン活動等) 	<p>●子どもの学齢期(小・中・高)ごとの福祉教育・ボランティア支援は必要であり、事業展開を行った。引き続き、福祉教育の推進を図る。</p> <p>●福祉教育として、すこやか郵便やクリスマスコンサート等への児童・生徒の参加を継続していく。</p> <p>●地域住民を対象とした福祉に関する教育(周知・動機づけ)を通して、まちづくりについて考え実行する事業等を実施した。引き続き、住民参画の福祉のまちづくりの推進を図る。</p>
----------	--	---

7. 障害者福祉事業 (425,433 円)

①在宅重度障がい者と家族のつどい	○10月1日 いけだワイン城他 9名参加 社協役員 11名、社協職員 3名、 ドライバー 1名	<p>●外出機会の提供の効果は大きい。</p> <p>●各事業所との連携が図られており、対象者の推薦、また、参加者の体調等を各ケアマネジャーに確認することができ、安全な外出を提供することができた。</p> <p>●参加しやすい事業内容を検討する。</p>
②ふれあい広場	○11月16日 生涯学習センターにて開催 ・町内のボランティア団体や、管内の障害支援事業所に出店していただき、授産品などの販売を行った。 参加者 300名以上	<p>●農工商まつりが道の駅で開催されたため、単独開催となった。多世代が集まり盛況に終了した。</p> <p>●関係機関・団体の協力を得て開催した。</p> <p>●今後も開催時期及び内容の検討をして行う。</p>

8. 老人福祉事業 (478,875 円)

①おひとりさま交流会 (旧ひとり暮らし高齢者親睦会)	<p>○1月30日 山村開発センターにて開催 ・加藤三絃会のステージ、上士幌中学1年生との交流・合唱披露で交流を深めた。 参加者 約135名(関係者含む)</p> <p>○1月23日 上士幌中学1年生に事前学習を実施した。</p>	<p>●新型コロナウイルス感染予防対策が緩和され、状況を見ながら適切な予防に留意し、関係機関・団体の協力を得て開催した。</p> <p>●中学校をはじめ、ボランティア団体、サークルの協力・調整を図りながら内容の検討を行う。</p>
②介護従事者・協力者の人材育成、発掘の協力	○まちづくり会社が初任者介護職員研修を実施 17名受講修了 ・今年度、受講者の社協登録ヘルパーへの	●主体的な実施とはならないが、町保健福祉課、まちづくり会社及び上士幌福寿協会と今後の人材育成、発掘に関して協議、協力

	登録はなかった。	しながら実施した。
③ 介護者家族団体活動の支援	○いっしょくしていく会への活動費助成 ○認知症カフェに協力	●介護者家族団体活動に活動費を助成し、側面からの支援を実施した。 ●介護者家族の相談・支援として、認知症カフェに協力し、ケアラー（介護者）支援を行った。
④ ふれあい運動交流会 (旧おとしより・障がい者スポーツ大会)	○8月20日 スポーツセンターにて実施 ・誰もが参加しやすい競技内容で実施した。参加者94名、関係者15名	●開催時間、競技内容に配慮し実施した。 ●新型コロナウイルスが5類へ移行したものの、感染拡大に留意し、関係機関・団体の協力を得て開催した。

9. ボランティア活動振興事業 (597,168円)		
① ボランティア活動保険加入	○ボランティア活動者、団体、サークルの加入助成	●安心してボランティア活動を行うことができるよう継続して支援する。
② ボランティア研修会参加助成	○ボランティア愛ランド北海道 ・9月28日 江別市民会館 参加者4名（うち事務局2名）	●ボランティア実践者の研修機会、全道・管内のボランティアとの交流・情報収集の機会として参加の意義は大きいと、今後も参加する。 ●研修の場の提供は重要であり、参加者確保を含めて対応していく。
③ ボランティアスクール	○第1回 ・10月3日 生涯学習センターにて開催 「ボランティアの力 ～あなたの一歩が、地域活性化・まちづくりの一歩へ～ 講師 星槎道都大学 社会福祉学部 教授 上原 正希氏 参加者31名 ○第2回 ・10月29日 生涯学習センターにて開催 書いて渡してみんなハッピー 感謝の気持ちをハガキで伝えよう 『ありがとう』笑い文字初級講座 講師 笑い文字普及協会 初級講師 あべ あかね氏 参加者15名	●ボランティアの養成、資質向上のため研修は重要である。内容の充実と参加者拡大に向けて、引き続き取り組んでいく。
④ 空き缶回収クリン作戦	○5月11日 市街3コースで実施 ・現地集合の分散方式にて実施した。 58名参加	●今後も清掃活動に積極的に取り組み、町の美化活動を実施する。
⑤ ボランティア需給調整	○主にボランティアポイント制度の需給調整の実施	●従来の社協が実施するボランティア需給調整と、ボランティアポイント事業との関係調整を図った。
⑥ ボランティアセンター運営委員会	○ボランティアセンター運営委員会の開催 ・1月16日 生涯学習センター ・実施事業に関する報告について協議した。参加者8名（うち事務局4名） ○ボランティアのつどい ・2月26日 ふれあいプラザ	●主体的活動を目指し、運営委員会の強化を図った。 ●他市町村の状況や研修に参加して研鑽を積み、センターの機能充実に努めた。 ●「ボランティアのつどい」をボランティアセンターの主体事業として位置づけ実施

	参加者 39 名 ・アイスブレイク、モルック、茶話会を行い、交流を深めた。	した。 ●ボランティア活動者、ボランティアに関心のある方の交流する機会として、今後も継続して実施する。
⑦ ボランティア団体活動助成	○ボランティア 4 団体に助成 ・みどり会、夢気球、老連女性部、お話し「カッコウ」	●継続して助成する。
⑧ ボランティア活動実践校助成	○町内の小学校、中学校に助成	●継続して助成する。
⑨ ワークキャンプ（夏・冬）	○デイサービスセンター 夏・冬希望者なし。 ○認定こども園 夏 2 名参加 冬 2 名参加	●中高生にとって、福祉の現場での実践的な体験は効果が大きい。 ●参加拡大に向けて、学校との連携強化を図る必要がある。
⑩ ボランティアポイント事業（町委託事業）	○平成 29 年度から町補助事業として実施 ・ボランティア登録者数 51 名（新規ボランティア登録 11 名） ・主に、施設関係、社協事業、プル選別、図書館移動図書返却本の清掃、図書館主催映画会の受付、ごみ出し支援、デイサービス等 ・登録研修会を希望者に対し随時開催 ・ボランティアミーティング未実施	●高齢者の社会参加を通じた介護予防を推進し、地域住民の相互の交流を目的として実施した。 ●受入先機関と密に連携を図り、ニーズを確認しながら登録ボランティアの活動の継続と充実を図った。 ●登録ボランティアの資質向上を目指す。 ●前年度比べて、ボランティア登録者が増加した。引き続き、登録者の増加に向けて取り組みを進める。
⑪ 地域福祉リーダー（ボランティア活動者）資格取得助成	○社協だよりにて周知、ふまねっとサポーター講習会参加者を募ったが参加申込なし。	●研修に参加し、資格取得者が、サロンやふれあい広場等で普及・啓発を行う。

10. 在宅福祉サービス事業 (2,594,605 円)

① ふれあい郵便	○年賀状 ・協力団体の対応が難しく実施なし。 ○暑中見舞状（上士幌中学校生徒作製） ・87 歳以上のひとり暮らし高齢者 87 名 ○寒中見舞い（上士幌中学校生徒作製） ・87 歳以上のひとり暮らし高齢者 64 名	●中学生による暑中見舞い、寒中見舞いを送付した。 ●事業が定着しており、はがきを楽しみにしている対象者も多い。 ●継続して実施する。
② 要援護高齢者等訪問サービス	○実人数 0 名、延べ訪問回数 0 名	●サービス提供により、利用者の在宅での生活を入所ぎりぎりまで支えている。 ●ヘルパー確保と充実が課題である。
③ 福祉有償運送事業	○登録人数 41 名、実利用人数 23 名 ・総利用回数 1,229 回（前年度 996 回） ・透析、通院利用 利用回数は回復傾向 ・前年比総利用 1.2 倍、実利用人数 0.8 倍	●引き続き移動困難者に対する外出支援を継続し、生活向上の支援を行う。 ●車輛の故障や事故が起きないように、整備・点検等に努めた。 ●運転手の確保が課題である。
④ ふれあいサロン	○ほがらかサロンの実施 ・12 回 延べ 337 名参加 ・通常のサロン以外に、昭和歌謡（4 月 23 日）、オカリナコンサート（5 月 28 日）、バス遠足（7 月 23 日）、映画鑑賞会（8 月 27 日）、上士幌高校家庭部による手作り教室（11 月 26 日）、クリスマスコン	●充実した地域交流、異世代交流の場として提供した。また、高齢者の居場所づくりとして取り組む必要がある。 ●出前サロンによる地域派遣を行った。 ●既存のサロンの維持を重視した。リーダー的な役割を担っている方々が、維持していくことに不安を抱いているため、継続して

	<p>サート(12月25日)</p> <p>○出前サロンの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6回実施 ・3の2区ゆうゆう会、コミュニティくるみ、共和女性学級、七友会 <p>○サロン相談回数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8回 <p>○ふまねっ党の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11回 延べ133名参加 ・9月10日バス遠足を実施15名参加 <p>○男組ふまねっの実施(男性対象)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・21回 延べ150名参加 ・9月19日バス遠足を実施10名参加 <p>○サロン助成の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北居辺サロンあじさい、コミュニティくるみ、共和女性学級、さくらクラブ 	<p>いくための相談、支援を強化した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●介護予防ツールとして、ふまねっの充実、強化を継続しながらふまねっ以外の介護予防運動の導入及び推進を行った。 ●登録ボランティアの育成を行った。 ●気軽な外出の場として、参加者の拡充を図る必要がある。 ●既存サロンに対して、出前サロンや相談等の支援を行い、登録ヘルパーを同行し、レクリエーションスキルのアップを図った。 ●登録ヘルパーの不足が課題である。 <p>●引き続き、新規サロン開設支援を行う。</p>
⑤生活支援サービス	<p>○実人数0件、延べ訪問回数0回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ出し支援については介護支援ボランティアが対応した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●サービスの提供実績はなかったが、他のサービスを使えないケースに対応することができる選択肢として、必要なサービスである。 ●ヘルパー確保と充実が課題である。
⑥ふれあいオリンピック	<p>○ガンバルーンふれあいオリンピック実施</p> <p>3月20日 延べ89名参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで新型コロナウイルス感染のため、開催が中止になるなどしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●様々な年齢の個人や団体に参加いただき、ゲームを通じて交流を図った。参加者から好評で、継続開催していく。

11. 小地域ネットワーク推進事業(431,514円)

①小地域ネットワーク活動助成	<p>○指定地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3の2区ゆうゆう会、七友会、16区元気クラブ、9区、10の1区 	<ul style="list-style-type: none"> ●継続した地域活動支援として意義が大きい。 ●活動地域の拡大に向けた事業との連携が必要である。
②小地域ネットワーク活動推進会議・研修会	<p>○小地域ネットワーク研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1月21日 生活体制整備研修に合わせて、地域づくり活動や共助の必要性についての講話いただき、参加者と学びを深めた。参加者25名 	<ul style="list-style-type: none"> ●小地域ネットワーク活動の必要性・重要性を認識する機会として実施した。 ●実践活動地域の拡大につなげるため、町総務課や地域包括支援センター等と連携して展開していく必要がある。
③研修会参加助成	<p>○参加予定の研修会が中止となり未実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●全道・道東地区での町内会活動の取り組みを知る機会として参加の意義があるので、参加助成を継続する。
④小地域ネットワーク地域懇談会	<p>○小地域ネットワーク懇談会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市街地区行政区長や民生委員児童委員宅を訪問し、小地域福祉活動について理解を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●今後も行政と協働して、実態調査未実施の行政区に対して、役員などへ説明を行う。
⑤災害支援ネットワーク事業	<p>○防災センター視察研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月27日 釧路市防災センター小学生とその保護者を対象に、親子で学ぶ防災学習として実施した。参加者25名 <p>○防災訓練の協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月6日 3の2区地域防災訓練の協力 	<ul style="list-style-type: none"> ●防災センター視察研修は、自分たちの地域は自分たちで守るという意識付けになっている。 ●防災研修等を通して、災害時に対応できる活動、災害ボランティアの育成が急務である。

	<p>地図を用いて、避難所への経路と、要配慮者の確認を行った。参加者 25 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月10日 上士幌町防災訓練協力大規模訓練にボランティア団体「夢気球」と参加し、陸上自衛隊鹿追駐屯地の部隊と一緒に炊出しコーナーを担当した。参加者 約 150 名 ・11月21日 上士幌小学校4年生とその保護者を対象にした防災教室親子で避難時持ち出し袋の内容について話し合った。参加者 92 名 ・12月4日 ぬかびら源泉郷地区防災訓練協力非常食コーナーを担当し、日頃からの備えと、長期保存可能な食材について説明した。参加者 15 名 ・12月10日～11日 上士幌小学校防災教育全学年を対象に防災授業を、町防災専門員と実施した。避難所での仮設テント設営や、非常時持ち出しバックの講話、防災クイズや防災かるたなどを行った。参加者 約 220 名 ・1月20日 上士幌中学校2年生 SDGs 学習高齢者疑似体験装具を装着し、要配慮者の介助方法など指導した。参加者 36 名 ・2月26日 上士幌中学校3年生 SDGs 学習避難所運営体験を行い、要配慮者が避難して来た際の注意点や介助方法を指導した。参加者 35 名 ・3月7日 上士幌中学校3年生による町民向け防災学習発表会生徒が講師となり、防災をテーマにした内容を町民向けに発表した。説明の補足や生徒のサポートを行った。参加者 約 50 名 <p>○災害支援、ボランティア研修会参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月31日 災害初期支援者養成・資質向上研修（音更町） 参加者 2 名 	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●防災訓練を実施している地域や団体の支援を継続するとともに、新たに実施する地域と団体の発掘に努める。 ●町で行っている自主防災組織結成・活動支援に協力し、要援護者を把握することにより、地域の防災に対する意識を高めていく。 <p>●災害ボランティアセンター設置運営マニュアルの随時更新を行う。</p> <p>●災害発生時に、災害ボランティアセンター設置運営マニュアルを基に迅速な対応を関係機関と連携し展開する。</p>
<p>⑥地域福祉・生活支援コーディネーター配置事業（町委託事業）</p>	<p>○地域福祉・生活支援コーディネーターを配置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1月21日 第1回生活支援体制整備事業講演会「支え合いのまちづくり研修会」参加者 25 名 ・3月11日 第2回生活支援体制整備事業講演会「みんなで語ろう！昭和のかみしほろ」 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域福祉コーディネーターを配置し、小地域福祉活動推進と活性化を図るとともに、総合相談・支援を行った。 ●町民の支え合い意識の醸成を目指し、講座を実施した。 ●多様な参画を促し、楽しさでつながる活動を創出、日常生活総合支援事業を展開して地域包括ケアの推進を図った。

	<p>参加者 30 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちなか農園の実施 コロナ禍でも高齢者がつながりを持てる場として農園活動を実施した。認定こども園と連携し交流事業を実施した。 <p>参加者 延 19 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帯広警察署上士幌中央駐在所による、特殊詐欺防止の啓発活動を行うあたり、地域サークルとサロンへの橋渡しを行った。 ・地域の多世代交流等を目的とする「地域食堂」の実施を支援 ・1月24日 上士幌高校3年生と、地域高齢者団体がモルックを通じた交流事業を実施した。参加者 53 名 ・日常生活総合支援事業、生活支援コーディネーターに関する周知啓発 地域サロンへ出向き、生活支援コーディネーターの役割の説明を行った。 ・ニーズ把握の実施 市街地区行政区長・民生委員児童委員宅への訪問を行い実施した。気になる方へは訪問し、困りごとや緊急連絡先・健康状態等の聞き取りを行った。 ・小地域ネットワーク及びサロン活動の支援（随時実施） ・健康マージャンサークルの支援 	<ul style="list-style-type: none"> ●まちなか農園を実施し、参加者が楽しみながら他者とつながる場を目指した。 ●生活支援コーディネーターが地域のニーズ把握とサービス提供体制の構築を図り、地域包括ケアの確立を目指した。 ●個別訪問によるニーズ把握を行った。 ●実態調査を実施する町内会を拡大する。 ●令和6年度で社会福祉協議会への生活支援コーディネーター業務委託が終了となる。
<p>⑦地域支え合い推進会議の運営協力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○地域支え合い推進会議（2回開催） ・1月21日、3月5日 ・上士幌町の生活支援体制整備事業について説明、事業報告 ・令和6年度事業の進捗状況について、町事務局及び生活支援コーディネーターから報告した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●推進委員に活動を報告し、活動協力など依頼した。 ●令和6年度で社会福祉協議会への生活支援コーディネーター業務委託が終了となる。包括支援センターやまちづくり会社と連携し、地域包括ケアの推進に努める。

12. 福祉団体活動助成・支援事業（124,000円）		
<p>①福祉団体活動助成・協力、支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○遺族会への助成 ○福祉団体への協力・支援 ○母子寡婦会は令和6年度で解散 	<ul style="list-style-type: none"> ●町からの補助金を継続助成を行った。 ●団体事務局を担うことで、団体運営がスムーズに行われた。

13. 生活福祉資金貸付事業（67,572円）		
<p>①生活福祉資金貸付事務</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○新規貸付 0件（相談 0件） 	<ul style="list-style-type: none"> ●民生委員児童委員との連携強化を図りながら、随時相談に対応している。 ●セーフティネットとして、相談者の状況を見極めながら対応している。 ●未償還者への償還対応が課題である。
<p>②福祉資金貸付金（社協単独）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○新規貸付 0件（相談 3件） 	<ul style="list-style-type: none"> ●失業や物価高騰などの社会情勢の中、生活困窮世帯が増加しており、生活困窮者支

		援事業とも連動し対応を行った。 ●未償還者への償還対応が課題である。
--	--	---------------------------------------

14. 心配ごと相談所運営事業 (45,260 円)

① 心配ごと相談所設置	○毎月第3木曜日に定期開設 12回 ・相談件数 2件(2名) ・相談員6名(内1名行政相談員兼任) ※年度途中で相談員1名減(町外転出) ○心配ごと相談員会議の開催(意見交換) ・4月4日 生涯学習センター	●町民の心配ごととの相談窓口として、定期的に開設する意義は大きい。 ●総合相談窓口として職員が随時対応している。 ●関係機関・団体と連携し、相談者の問題解決のため、適切な対応を展開する必要がある。
-------------	--	--

15. 居宅介護支援事業 (6,363,670 円)

① ケアプランセンター上士幌運営(介護保険事業・指定居宅介護支援事業)	○専任1名、兼任1名の2名体制で運営 ・件数 要介護者 延べ408名 ・入退院、施設入所により入れ替わりはあったものの、件数は増加した。 ○町地域ケア会議 24回 ○ケアマネ連絡会 4回 ○各種研修会への参加 10回 ○認知症カフェ会議 1回	●居宅介護支援事業所として介護保険上必須であるケアプラン作成を行い、円滑なサービス調整・提供を実施した。 ●今後の町内の認定状況の推移を見ながら、当面専任1名体制で運営する。 ●研修会に参加し、専門性・資質向上を図った。 ●ケアラー(介護者)支援を行い、虐待の未然防止を行っている。 ●ケアマネ連絡会の企画に関わり、地域ケアマネの研鑽やネットワークづくりを行った。
-------------------------------------	---	--

16. 権利擁護成年後見事業 (291,638 円)

① 日常生活自立支援事業(道社協委託事業)	○道社協実施事業への協力 ・契約者 なし	●判断能力に不安がある方の支援として、契約行為や家計管理の支援は非常に重要であり、事業の意義は大きい。 ●成年後見制度の前に利用可能な制度として、随時状況を確認し、道社協と連携して対応している。
② 成年後見(法人後見)事業	○法人後見受任者4名 ・年度内の状況 新規受任1件(後見類型) 継続 2件(保佐類型2件) 終了 1件(保佐類型)※死亡 ○研修会への参加 ・2月20日 法人後見実施機関研修かでの2.7(札幌市)	●判断能力が劣り、成年後見制度の利用が必要な方に対し、社協が法人後見を受任し後見活動を行った。 ●今後、市民後見人養成講座修了者の支援員登録を得て活動支援を行う必要がある。
③ 権利擁護センター運営(町委託事業)	○中核機関の設置 ・令和6年度から町より中核機関を受託し、成年後見制度の相談を受け、権利擁護支援の検討や支援を適切に実施するためにコーディネートなどを行った。 ○権利擁護制度全般に関する相談 ・相談 対応件数 延 146件(実相談34名) ○権利擁護制度に関する広報及び啓発 ・認知症サポーターフォローアップ研修、	●中核機関の役割である地域連携ネットワーク構築のため、地域の専門職等から協力を得て、成年後見制度の利用促進を図っていく。 ●権利擁護・成年後見制度に関する相談窓口が明確化され、相談機会の増加が見込まれる。 ●権利擁護センターに関する相談に関しては随時対応した。

	<p>認知症カフェ、帯広高等看護学院実習等にて説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内金融機関に事業説明 ・パンフレットを作成し、各種窓口、金融機関に配置 ・社協だよりや町広報にて周知 ・上士幌中学校の福祉授業にて講話 <p>○権利擁護啓発事業「権利擁護セミナー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未実施 <p>○権利擁護制度に関わる関係機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町保健福祉課、地域包括支援センター等と随時実施した。 <p>○市民後見人養成講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月4日～10月16日 全7回 3名修了 <p>○市民後見人フォローアップ研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未実施 <p>○虐待に関する事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャーや地域包括支援センターと連携して情報提供及び対応した。 <p>相談・対応件数 1件</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●関係機関・団体と連携し、権利擁護制度の適切な対応が図られた。 ●申立者支援として、親族や専門職後見人からの相談を受けている。 ●市民後見人養成講座修了者を法人後見支援員としての活動参加を促進する。 ●成年後見制度等の周知・広報することで、早い段階から制度利用を検討することが可能となる。 ●ケアラー（介護者）支援を行い、虐待の未然防止を行っている。 ●成年後見制度について学び、尊厳のある支援や、利用者本位の支援について理解していただいた。今後、制度の重要性が増す中で、市民後見人として活動していくことが期待される。 ●虐待が疑われるケースに関して、随時包括支援センターに情報提供している。
--	---	--